

武士道は神代の昔から

武士道協会理事 矢作幸雄

武士とはどのような存在か

最近になって、武士道という言葉があまり意識をしないで使われるようになってきました。

二十年ほど前までは、武士道といいますが、古くさいなどといわれたものですが、世情が武士道の世界の逆を行き、相手を思いやる気持ちは消えてしまい、親殺し、子殺しが珍しくなくなるばかりか、金を手にするためには見ず知らずの他人まで殺傷してしまう世の中となりました。

このような世相を改めなければという意識が、かつては古くさいといわれた武士道の倫理観を求

めてきたのではないかと思われます。

では、武士道とはなにをいうのでしょうか。

これは、武士として生きていく道と素直に解釈して良いと思います。

では武士とはどういう存在なのでしょう。

武士という言葉は古典にも多く見られますが、とくに「北面の武士」という平安期以降の京都の天皇の御所の、北を守る武士が著名な存在です。

国を護り、尊いお方を護るために武術を身につけた人を武士といったことがわかります。

この武士の元祖は誰なのか。歴史をずっと遡って神代まで行くと、二人の神様が浮かび上がって

くることとなります。神様ですから二人とは数えずに二柱というのが正しい呼び方です。

サツカーのアントラーズで有名になった鹿嶋市の鹿島神宮の神様と、利根川の対岸の香取市の香取神宮の神様が、武士の元祖、武神として知られています。

この神々は神代の昔に、天照大御神(伊勢神宮の御祭神)のご命令を受けて、出雲の大國主神(出雲大社の御祭神)と国譲りの話し合いをされました。その結果、大國主神が譲歩して日本の国が一つになったと伝えられています。

この時、国譲りのお返しとして、大國主神のために、高天原の天日隅宮の作法で出雲大社が作ら



▲やばぎ・ゆきお

1934年、茨城県生まれ。國學院大學に学び、大洗磯前神社権禰宮司、鹿島神宮禰宜、筑波山神社権宮司などを歴任。神社本庁教師として、'83年より水戸少年刑務所の相談指導にあたる。'92年と'98年に筑波大学大学院非常勤講師を務める。鹿島神宮教学顧問、鹿島新当流彰古会顧問、鹿島神流武道連盟顧問。

れました。

武士道とは、このように強いばかりではなく、思いやりの心が必要だと理解していただけましたか。


武士道は日本再生の鍵

古来、日本人はこの思いやりの心を誰もが身につけていました。古語で書くと「惻隱の情」となりますが、強さと優しさを兼ね具えることが大切とされてきたのです。

しかし、第二次世界大戦の後に、強い日本を恐れた国々によって、武士道が一時的に抑えられたためにゆがんだ精神構造となり、日本人の心から思いやりの心が消えていきました。

現在の日本社会の混迷は、この思いやりの心の欠如が生み出した現象であり、この心を取り戻すために武士道精神の素養が大切となりました。

武士道精神を欠いたままの日本の将来は、自分さえ良ければ他の迷惑などはどうでも良いという、短絡的な考え方の横行によって、民族的な考え方を欠いた暴力集団と化するおそれがあります。



日本人が一度は忘れかけた武士道精神を取り戻すことができれば、互いにいたわり合って徳性を活かし、一つの共通した目的のために努力を重ねて、やがては世界に誇れる民族として再生できるのではないかと考えられます。

古くて新しいもの見方

そのためには、まず、しなければならぬことがあります。それは日本の歴史上の人物、とくに武士道を遺奉^{いしんほう}して殉^{じゆん}じた人物の伝記を若い人々に学んでもらうことです。

人の生き方はさまざまですが、武士道をつらぬいた人の生き方は、現代の若い人々に、新しいものの見方・考え方を教えてくれるものと思つていきます。古くて新しいもの見方です。

吉田松陰^{よしだしょういん}、西郷隆盛^{さいきやうたかもり}、坂本龍馬^{さかもとりゆうま}などの著名人物の外にも、明治維新の志士は数多く、更に遡れば楠木正成^{くすのきまさしげ}や新田義貞^{にいたよしかた}など、日本の歴史をかたちづかった人々を知ることが、武士道を理解する上で欠くことのできない学びであるといえましょう。

そして、誰か一人、この人の生き方を学びたいという人が発見できたら、その偉人の伝記をよく学んで、同じような生き方をするのも一つの方法と思います。

このようにして、多くの人々が武士道精神を学んで、日本を良くするための努力を重ねていけば、遠からずして日本の運命は上向きになるに違いありません。

もし、誰を選べば良いか迷うようでしたら、郷土の偉人を選んでみるのも良いと思います。

私などは、日本武尊^{やまとりけるのみこと}を尊崇し、藤原鎌足^{ふじわらのかまひら}の大化の改新の偉業を偲ぶ外に、郷土の偉人塚原卜伝^{つかはらのくはつでん}の剣に対する真摯^{しんしん}な生き方から武士道を学んでいますが、一生学んでも学びきれないと思います。

終わりに茨城が生んだ幕末勤皇の歌人であり志士の佐久良東雄^{さくらあづまを}の歌を掲げます。

天皇につかへまつれとわれを生きみし

吾がたらちねぞたふとかりける

この東雄の一生も武士道の権化と思われてなりません。